

あこう(のたより)

4月

発行責任者
西川 晃 二

【校長室より】

愚直なる学びの徒たれ

平成25年度が始まり1ヶ月が経ちます。年度末に18名の教職員と別れたばかりですが、本年度は15名の教職員を迎え、新年度がスタートしました。別れの後には、出会いがあります。生徒も同じで、190名の卒業生の門出を見送り、178名の新入生を迎えたところです。

さて、入学式にて私が話した内容を一部紹介し、新年度第1号(4月号)の【校長室より】としたいと思います。式辞では、「校訓」を確認し、生徒も教職員も五島高校の原点に立ち返ってほしいとの思いを述べたつもりです。

本校の校訓は「向学 磨け知性を」「融和 語ろう理想を」「進取 燃やせ気魄を」です。

そこで、新入生に、この校訓「向学」「融和」「進取」に即して、心構えや期待することを、話したいと思います。

「向学」とは「ひたすら学問に励め」という意味です。皆さんは、校門に入ってすぐの掲示板を見てください。そこには「愚直なる学びの徒たれ」という言葉を掲げています。さらに、その下には江戸時代の国学者 本居宣長の『うひ山ふみ』という初学者への教えの書からの引用を書いています。「学問は、ただ年月長く倦まず怠らずして、励み努むるぞ肝要(大事)にて、学びやうは、いかやうにても良かるべく、さのみかかはるまじきこと也。いかほど学び方よくても怠り努めざれば、効はなし。」つまり、学問を究めるにスマートな、要領の良い方法というものはない。ひたすら怠らず、懸命に励むことに尽きる、というのです。また、彼はこのようにも言います。「すべて学問は、始めよりその志を高く大きに立て、その奥を窮め尽くさずはやまじとかたく思ひまうくべし。この志よわくては、学問進みがたく、倦み怠るもの也。」と。

諸君は、高い志をもって「愚直なる学びの徒」であってほしいと強く願います。

次に「融和」とは、「人は人を浴びて人になる」ということです。人は一人では生きていけません。他者との豊かな心のふれあいが、豊かな人間を作っていくのです。この五島高校で友と出会い、将来の夢や理想を語り合い、切磋琢磨することで人として大きく成長するはずです。また、豊かな出会いを経験するためには、自己研鑽の努力が必要であることは言うまでもありません。

最後に「進取」とは「常に意欲的に物事に取り組み」ということです。若者にとって「人生は振り返るものではありません。人生は積み重ねるものです。」しかも、日々あらたな経験の連続です。その際に、幾多の困難や失意を経験することでしょう。時には傷つき、悩みにくれることでしょう。しかし、その時こそ自分に与えられた、神が人に与えた恵み、「天恵」であると思い、気魄と情熱を燃やし乗り越えていってほしいと思います。若いときには自分は一人であると、孤独感にさいなまれることがあります。しかし、その時こそ、友がいて、保護者がいて、そして教師が見守っているということを忘れないでください。気魄と情熱を燃やし世の魁(さきがけ)たらんことを期待します。

以上 校訓に即して私からの期待を述べましたが、改めて、伝統校、名門校、五島高校の生徒としての誇りと自覚を持ち、豊かな未来を切り拓くために、自ら学び、考え、行動できる逞しい人材たるべく日々研鑽努力を積み重ねてくれることを願います。
(「入学式」式辞より)

ところで、先月、今月と中央の方が学校を訪問しました。

3月は文部科学大臣が本校に来校。五島市の教育関係者と「ふるさとトーク」を実施しました。その際に、大臣には本校のすばらしさをPRしたところです。

また、先日は日本テレビの取材班が訪れました。「赤丸! スクープ甲子園」(月曜日19:00放映)という番組のスタッフでした。「城跡に建つ高校」というテーマでの取材でした。全国に向けての五島高校のPRになればと、私自身もユルキャラ「ふなっしー」「つばきねこ」とともに道案内役をいたしました。しかし、テレビのことですから、まじめな話題は敬遠されましたが……。果たして、どのような構成になるのか、はなはだ心配であります。

入学式 8日(月)

本校体育館にて入学式が行われました。国歌斉唱の後、新入生178名が西川校長から入学を許可されました。校長式辞においては、入学についての心構えや期待することをお話しいたしました。

本校が掲げる「向学 磨け知性を」「融和 語ろう理想を」「進取 燃やせ気魄を」という校訓の紹介と、伝統校・名門校としての誇りと自覚を持ち、豊かな未来を切り拓くために、自ら学び、考え、行動できる逞しい人間になってほしいとの言葉でした。「向学」における「愚直なる学びの徒であれ」についての話では懸命に励むことの重要性を確認し、学問を究めるために高い志をもってほしいということを強調することで、新入生を後押ししました。入学したときの気持ちを忘れることなく、常に未来に向かって輝く五島高校生になってほしいものです。新入生代表宣誓では1組の大村美優ジンさんが「学業に専念し、五島高校の伝統の継承と新たな歴史の創造に邁進します」と宣誓を行い、新入生による初々しくも力強い校歌が体育館に響き渡りました。

入寮式 8日(月)

本校メモリアルホールにおいて、入寮式が行われました。今年度は男子4名、女子は海陽高校2名を含む9名の、計13名が入寮しました。式では校長先生から激励の言葉後、入寮生を代表して1年7組の宮本惇未さんが誓いのことばを宣誓してくれました。

慣れない環境の中で不安な気持ちもあるかもしれませんが、先生方や先輩方のご指導を受け、一日でも早く寮生活に慣れ、五島での高校生活を充実したものにしてくれることを、職員一同期待しています。

対面式 9日(火)

4月9日(火)に対面式が行われました。まず生徒会長の才津為夫君が「私たちと一緒に五島高校を盛り上げていきましょう。」と歓迎の挨拶を行いました。続いて、1年7組の草野芽依さんが新入生を代表して「自分自身を成長させ、五高生としての誇りを大切にし、充実した高校生活を送ります。」と誓いの挨拶をしました。また、生徒会によるユニークな役員紹介や新転任の先生方の個性溢れる自己紹介も行われ、生徒たちの顔にも笑顔が見られました。2、3年生による「蒼き故郷」の歓迎合唱も行われ、新たな出会いへの喜びを大きな声で表現していました。

新入生や新転任の先生方を迎え、五島高校の25年度がスタートしました。今までの伝統を引き継ぎながらも、一人一人が個性や力を発揮し、更に飛躍できるような五高生活を送りましょう。

新入生宿泊研修 15日(月)～17日(水)

3日間、佐世保青少年の天地において1学年の宿泊研修が行われました。この研修の目的は、様々な体験を通して、学年やクラスの融和を深め、五島高校生としての誇りや自覚を身に付けることでした。集団行動・校歌遠征歌練習では、集団における規律の大切さやクラス毎に協力して一つのものを作り上げることの素晴らしさを学ぶことができました。クラスワークにおいては、入学間もない中で自己紹介等を行うことで、生徒同士の距離が近くなっていきました。

二日目も天候に恵まれ、自学の後烏帽子岳山頂へのハイキングを行いました。そして広場ではクラス対抗の長縄跳び大会を行い、大いに盛り上がりました。時間は短いながらも、声を掛け合いながらお互いに練習を重ねたことで仲間同士の絆が生まれたようでした。その後は施設に戻り、各班に分かれてカレー作りを行いました。炊き出し場の近くから燃えやすい小枝や杉や松の葉を集め、火をおこすことから始めました。食材を切り分ける者、お米をとぐ者、火力を維持するために薪を入れる者など、それぞれが話し合い分担して作業を進めていました。「生野菜カレー」「スープカレー」「お焦げカレー」など各班仕上がりは違いましたが、貴重な体験ができ満足していたようです。また夜には、今年3月に卒業した先輩3名による講話がありました。話の内容は主に「学習について」「部活動との両立について」などをそれぞれがわかりやすく話をしてくれました。新入生からも質問の手がたくさん上がり、積極的な姿勢が見られました。

最終日には、校歌遠征歌コンクールが行われ、この3日間の練習の成果を発揮しました。クラス毎のカラーが見られ、興味深い発表でした。

この研修を終えた今、ようやく五島高校生としてのスタートラインを切ることができました。これからの学校生活でさらに自分自身を大きく成長させてほしいと願っています。

【長縄跳び大会】

優勝 7組 2位 6組

【校歌・遠征歌コンクール】

優勝 3組 2位 1組・4組(同点)



普通科65回生・衛生看護科38回生 結果総括

国公立大学合格者数85名
 (国立大学合格者数59名)
 国公立大学合格率51.2%
 難関大合格者数7名
 (東大1名、九大5名、長大医1名)
 長崎大学合格者数14名
 私立大学合格者数121名
 (早稲田大、中央大等含む)
 公務員希望者(自衛隊除く)
 1名合格(五島市消防)
 衛生看護科: 准看護師資格試験全員合格
 (17名)
 ※合格者数は現役生のみ延べ人数

3年ぶりの東大合格、6年ぶりの国立大学医学部合格など、難関大入試でも結果を出すことができました。そのほか、大逆転で合格を勝ち得た者も、目標とする大学に一步及ばなかった生徒もいましたが、それぞれに最後まで学習し続けた姿が印象的です。素直な生徒が多く、学年運営においてはこちらが助けられることが多くあった学年でした。これからそれぞれの道を歩み始めてからも、集団の和を大事にしなが、諦めず目標に向かう人間であって欲しいと願っています。

PTA総会のご案内

5月25日(土)に開催します。多数の保護者の皆様の御参加をお待ちしています。

新転任の先生方

教頭	大隈 重之	英語	長崎東高校より
事務長	草野 雅充	事務	口加高校より
教諭	阿比留憲一	英語	佐世保北高校より
教諭	西藤 英和	数学	佐世保西高校より
教諭	山元 裕文	英語	諫早高校より
教諭	山下 乃子	数学	長崎北高校より
教諭	橋口 史子	保体	新規採用
教諭	猿渡 佑希	看護	新規採用
講師	杉本 誠治	保体	対馬高校より
講師	牟田 拓朗	数学	新規採用
講師	池田 純	英語	猶興館高校より
講師	松屋真理恵	国語	五島海陽高校より
講師	久枝 純	看護	新規採用
主事	大野ゆかり	事務	新規採用
実習助手	岩脇 真美	看護	小江原中学校より

分掌・学年主任の先生方

教務部	増本 欣也	衛生看護科	田代 章子
生徒指導部	引地 勝	ｽｰﾈﾝ	神近正二郎
進路指導部	中野 秀紀	寄宿舎	北川 昭彦
生徒会指導部	本田 洋久	第1学年	久保田幸成
教育相談部	木田 博子	第2学年	山口 一守
保健美化部	中村 孝士	第3学年	村田 誠
研修図書部	茶園 孝一		

「新しい責任」

第1学年主任 久保田 幸成

新入生諸君、五島高校への入学おめでとう！心からみなさんの入学を、歓迎いたします。そしてこれから始まる高校生活において、君たちが大きく成長してくれることを期待しています。君たちは入学に至るまでいくつかの選択をしてきました。具体的には「高校に進学するか否か」「どの学校、どの学科に進学するか」等です。今現在、選択を同じくした者達と同じ学年、同じクラスにいることとなります。まずは志を同じくし、奇跡的な出会いを果たした「同志」達を尊重しあってもらいたい。この出会いは、きっと君たち一人ひとりにきっと貴重な経験をもたらすでしょう。

さて、これから私たちは君達に多種多様なことを要求していきます。その根底にあることは「五島高校生としての責任」を果たすということです。さきほど高校選択について触れましたが、高校では自分で選んだことへの責任は自分で負わなくてはなりません。これが義務教育との大きな違いです。私たち教員や保護者の方々による手助けは行いますが、これからの高校生活において得るもの、失うことの責任は基本的に自分が負います。例えば「定期テストで欠点を取る」ことは教師や保護者の責任でしょうか？いいえ、違います。そうならないように日々の授業はもちろん予習・復習、あるいは教師への質問など、様々な手段を講じて対策をしなければなりません。ご承知のように高校では学習の到達が図れないと進級ができません。そして3年後は、自分で進路を決定していくのです。できないことや思い通りにならないことの責任を転嫁してしまうことはあってはならないことだと思いますし、人間的成長はのぞめないと思います。

私たち教員は五島高校のため、日本や世界のために君達を教育し、心身ともに成長させなければならない。理由はそうした職業を選んだからです。そして保護者の方も同様です。高校教育はこのことを前提として成り立っていると私は考えています。何かやっかいなことに思えますが、自立することは生徒にとって楽しいはずですし、大人を感動させ、それが喜びにつながるものだと思います。だから「責任」は、実は高校生活を送る生徒や保護者そして教員にとって、意識しておかねばならないものだと思うのです。

最後に、オバマ大統領がご自身の就任演説の際にこのように呼びかけました。「国が民のためにしてあげるという時代は終わった。これからは民が国のために何をすることが問われる時代だ。新しい責任の時代である」と。「新しい責任」のもと、五島高校で何ができるか。君たちの更なる『躍進』を期待しています。

「シンデレラマン」

第2学年主任 山口 一守

「準備、実行、反省」。何度となく聞いてきた言葉です。この言葉でピンときた2学年生徒はかなり鋭いね。春休みはどうだった？3月4日（月）の学年集会をもとに計画を立て（準備）、春休みを過ごし（実行）、どうだったかを振り返る（反省）。2学年全員の春休みの感想は書けないので、先生達の感想を少し書かせてもらいますね。

「中間チェック日があって、本当に良かった。」「前半の学習ペースはかなりゆっくりしていた。」「ここを押さえてほしいというポイントができていない。」「知識が不足している。」

「一人では学習に取り組めない。」と、ここまでは残念な感想です。しかし、「質問に来るようになって良かった。」「今まで真剣に取り組んでいなかった生徒がやり始めた。」「×切から逆算して取り組むようになりつつある。」と、2学年生徒の変化が見られた感想もありました。これはかなり嬉しいです。

最近、「シンデレラマン」というボクシング映画を観ました。下馬評では圧倒的不利と予想されたボクサーが、試合では追い込まれながらも勝利して世界チャンピオンになるストーリーです。相手ボクサーは自分が有利と考え、試合序盤は集中力に欠けた状態でした。中盤以降やっと気持ちが入って本気になりましたが、最後は敗れてしまいました。

さて、緑の学年の生徒が少しずつ変化してきているようです。100%の集中で2学年をスタートした人が出てきています。今、ドキッとした君。この流れに乗り遅れるな。「1日1個、先生や友達に質問。」を続けたら1ヶ月後はどうなっているかな？2ヶ月後、3ヶ月後・・・そして1年後はどんな自分になっているだろうか？「分かる喜び」を少しずつ積み重ねてみようよ。その成功体験の繰り返し、きっと君達に自信を与えてくれるはずだ。

「明日の自分＝今日の自分×1.01」。そして、頑張った自分へのご褒美を準備しておこう。

「君は求めているか？」

第3学年主任 村田 誠

『求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん』

新訳聖書「マタイによる福音書」より

いよいよ本当に3年生になってしまいました。今、君たちはどんな気持ちで毎日の学校生活を送っているでしょうか。3年生になって、自分の進路について真剣に考え、このままではいけないと思い、行動を起こしている人がほとんどであると信じたいのですが、君たちから提出された課題のノート、授業の予習状況を見ると、まだまだ本当に真剣になっていると言い難い人がいるようです。まだまだ先の話だと思っていますか？あるいはもうあきらめてしまったとか・・・

今年度最初の学年集会の中で、進路主任の中野先生から、「意志の力」という話がありました。本当に物事を成し遂げたいという意志が大切だとみんな納得したと思います。

さて、それから・・・

自分は何を求めているのだろうか？

求めて実際に行動したのだろうか？

得られるようにちゃんと努力しているのだろうか？

求めなければ得られないものがたくさんあります。何もしないで得られるものは少ないし、もし、得られたとしても喜びは小さいはずです。自分が求めているものを、努力して手に入れたときの幸せはきっと大きいものですよ。

さあ、3年生諸君！今年1年、進路実現に向け、精一杯頑張ろう。求めて、努力して、そして大きな喜びを手にしよう。受験に対して不安になることもあると思います。そんなときはみんなでお互いに励ましあい、乗り切っていくぞ。それが「受験は団体戦」です。我々、教職員も一緒に頑張ります。教科の質問、進路の相談など先生方はみんなが職員室に来るのを楽しみに待っています。五島高校は今年も年中無休、休日も学校で勉強しよう。

祝 平成25年度 子どもの読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰

2002年度から始まり、読書に対する子どもたちの関心を高めるなど優れた活動をしている全国の学校や団体を対象に表彰しているものです。今年度は、長崎県からは5つの学校や図書館、市民団体が表彰を受けています。

【本校の取り組み・・・朝の10分間読書、図書だよりの発行、学校図書館の整備】